

あいさつ大賞

2021. 12. 23

毎朝、学校の入り口に立っている。生徒が登校してくる。深々と頭を下げて挨拶をする生徒がいる。普通にお辞儀をして挨拶をする生徒がいる。会釈程度に頭を下げて挨拶をしていく生徒がいる。ちょこっと頭を下げて挨拶をしていく生徒がいる。様々である。

4月から見てきて変わってきたことがある。頭を下げる生徒が増えてきた。理由はわからない。部活動での指導もあるだろう。とにかくわるいことではない。

何人もの生徒が毎朝、挨拶をしていく。その中に、際立つ生徒がいる。3年生の女子生徒である。その生徒は、毎朝、きちんと頭を下げる。「おはようございます」の声に張りがある。これが毎朝同じように繰り返される。

きっと気分が乗らない日もあるだろう。辛いことや悲しいことがあった日もあるだろう。困っていることや悩みもあるだろう。それでも、彼女は毎朝、一定のレベルを保ちながら挨拶をしてくれる。まるで、挨拶をすることで、すべてをリセットし、今日もがんばるぞと言っているようである。

7月20日（火）、ついにその生徒に声をかけた。「4月からずっとあなたの挨拶の様子を見てきましたが、あなたの挨拶が野田中学校で一番です」そう伝えた。彼女は「ありがとうございます」と深々とお辞儀をして、いつものように校舎のほうに向かっていった。この日は、1学期の最終日だった。

8月23日（月）は2学期のスタートの日だった。私に褒められたりしたものだから、彼女はかえって挨拶しづらくなったかもしれないと心配していた。だが、彼女はやや意識していた感はあるものの今まで通りに挨拶をしていった。

11月になり、彼女が歩いてくるルートが変わった。私の立っているほうには歩道がある。彼女は今までこの歩道を歩いてきた。それが、あるときを境に、反対側を歩いてくるようになった。そうになると、横断歩道を渡らなくてはいけない。

毎朝、多くの生徒が、この横断歩道を渡っている。生徒の姿を認識すると、ほぼ100%の車が止まってくれる。その行為に呼応するように、生徒は小走りに頭を下げながら渡ってくる。これが日常である。

3年生の彼女が横断歩道を渡ってきた。小走りに頭を下げながら渡る姿は、他の生徒と一緒にある。ところが、彼女は違っていた。渡り切ったところで、180度振り向き、横断歩道に頭を深々と下げたのである。小学生で、こういった行動をする児童を見かけることがある。本校の生徒では、彼女だけである。きっと彼女は、小学生のときからずっと同じようにしてきたはずである。

今日は、12月23日（木）2学期の最終日である。彼女にまた声をかけたい。さて、どんなことを言おうか。本当は「あなたにあいさつ大賞を差し上げます」と言いたいところだが、そんなことを言われたら、3学期からやりづらくなるだろう。「今日、家に帰ったら野田中学校のホームページを見てちょうだい。あなたのことが載っているから」にしようと思う。